

海軍ニュース：南シナ海人工島への飛行場建設の目的

漢和防務評論 20160104 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

中国が南シナ海の争いのある島礁で実効支配の既成事実を積み上げ、埋立による飛行場建設を強行する目的は、有事において南シナ海の制空権を確保するためであると思われます。
南シナ海の制空権を敵国軍（たとえば米軍）に握られると、中国海軍の弾道ミサイル潜水艦等は自由に動けません。中国軍は、南シナ海の軍用飛行場をどのように運用するのか、今後とも目が離せません。

KDR 香港特電：

2014年6月、漢和内部の「情勢通報」英文版は、「中国上層部は習近平の承認を得て南シナ海に2個の飛行場を建設する。総面積はディエゴガルシア島の2倍であり、両飛行場はそれぞれ海軍、空軍に属する」と報道した。

建設速度が相当速く、わずか1年間に、SUBI 礁及び FIERY CROSS 礁に 3000 M を超える飛行場が出現した。しかも島嶼全体の建設工事は大規模で、埋立は最終的にディエゴガルシア島2個分を超える可能性がある。

2014年9月、米国 CSIS (戦略国際問題研究所) は、MISCHIEF REEF の衛星写真を公表し、3000 M の長さの区域が塙で囲われ飛行場建設を準備していると分析した。

KDR は、3枚の写真を比較した。すると滑走路建設の工程と同じであることが分かった。相当堅固な補強工事がなされ、簡易舗装ではなかった。これと同時に今年になってから、西沙群島の飛行場も補修され、補強されていた。衆知の通り、H-6H/K 爆撃機は、戦闘機と異なり耐圧強度の高い滑走路が必要である。これら 3000 M 級の滑走路は明らかに軍用であり、輸送機、爆撃機、戦闘機の離発着に用いられる。

いくつか注意すべき動向がある。

1. 2014年6月、KDR が戦略情報チャンネルから得た独自情報によると、当時計画されたのは、海空軍がそれぞれ1個飛行場を建設すると言うのであった。これは相当権威ある戦略情報であり、したがって KDR は内部通信で使用した。当時は3番目の飛行場を建設する話はどこにもなかった。

2. 報告は、当初海軍及び海南省から出された。後で空軍が加わり、二砲の支持も得た。

このような分析結果は、2014年6月以降、多くの利益集団、特に軍の利益集団が

南シナ海の埋立計画に参入し、習近平がこれを承認したことを意味する。3番目の飛行場を建設することは、過去1年以内に決定された可能性がある。

このように見ると、現在進行中の埋立計画は、当初の計画に比べ更に大規模である。複雑錯綜した軍の利益集団が関わってきたからである。習近平が軍に対する権力を強化するために、直接指示し、関与を支持したのである。

西沙群島永興島の飛行場補修の動向から見ると、中国軍の南シナ海における戦略の方向を見ることが出来る。

その一、全体的に見て、飛行場の数を増やすことは、戦時に進出できる戦闘機及び爆撃機の数が増える。中国は、南シナ海を中国の内海に変えたいのであろう。主な動機は、マラッカ海峡通過問題である。一旦有事になれば、米軍によりマラッカ海峡が封鎖される恐れがある。

その二、戦時には、長距離、大縦深の利点を利用でき、台湾及び日本の生命線となるシーレーンを封鎖できる。

その三、MISCHIEF REEF及び永興島の飛行場は北に偏っており、フィリピン沿岸に近く、戦時にはバリンタン海峡の封鎖を試みることもできる。一旦バリンタン海峡、マラッカ海峡、台湾海峡、台湾東岸が中国によって封鎖されると、米軍は南シナ海へ入れなくなる。

このほか、094型SSBN戦略核潜水艦の活動に関し、JL-2A型水中発射戦略ミサイル(SLBM)は射程8000KMであり、バリンタン海峡を通過して東方に進出しないと、米国ハワイに対する核攻撃が出来ない。中国の長距離戦闘機がバリンタン海峡を有効に封鎖して初めて、094型SSBNやその他の通常型潜水艦、核潜水艦がP-8A対潜哨戒機の偵察を避けてバリンタン海峡以東の深海区域に進出することが出来るのである。一旦この深海区域に入り、相当の深度を維持しさえすれば、中国潜水艦は、P-8Aの探知を避けることが出来る。

単純に作戦機の数量を基準にすると、戦時、南シナ海の3大飛行場は、中国海空軍3個連隊分約72機の兵力を駐屯させることが出来る。

次に、海南島軍事基地の建設から見て、次の段階は、各種防空ミサイル部隊が人工島の新たな飛行場に進駐するであろう。海南島には、HQ-6A、HQ-12、HQ-9の3種類の防空ミサイルが配備されている。南シナ海の3個の飛行場は、遅かれ早かれ防空ミサイルが配備され、島嶼全体に防空の障壁が形成される。その上、3個の第3世代戦闘機連隊の戦闘機が在空すれば、この地区の如何なる国家の空軍もこれを凌駕することはできない。

この段階で、中国は南シナ海の防空識別圏設定を宣言する可能性がある。そのとき、北京は、この識別圏を管理する軍事力を具備することになる。現在は、防空識別圏の設定を宣言したところで、北京は有効に管理することはできない。これが、現在南シナ海に北京が防空識別圏を設定しない最大の理由である。

軍用飛行場を建設することは、埠頭も軍用か軍民共用になることを意味する。3個

の人工島に停泊する水上艦、潜水艦の数は今後増加するであろう。SUBI 礁、FIERY CROSS 礁に建設された軍港埠頭は相当大型であり、大きさから見て 6000 トン級のミサイル護衛艦も停泊できるようだ。

以上